

中央区内景気動向調査

令和4年2月調査結果

令和4年3月30日

中央区

総 括

令和4年2月の動き

中央区内における2月の現状判断D Iは合計で37.0と、前回調査から25.2ポイント低下している。景気の先行き判断D Iは合計で56.5と、前回調査から4.7ポイント低下している。

図表 景気の現状判断D I、先行き判断D I（合計）

(D I)	令和3年		令和4年		前回調査 からの変化
	10月	12月	12月	2月	
合計					
現状判断D I	58.9	62.2	62.2	37.0	(-25.2)
先行き判断D I	63.0	61.2	61.2	56.5	(-4.7)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、令和4年2月調査の調査票発送は2月7日（月）、回答期限は2月16日（水）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は46名、有効回答率は92.0%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（％）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断D Iは合計で56.5と、前回調査から4.7ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連D Iは60.7と、前回調査から2.3ポイント低下し、企業動向関連D Iは53.0と、前回調査から6.4ポイント低下している。構成比では、「変わらない」と回答した人の割合が25.0ポイント減少し、「やや悪くなる」と回答した人の割合が17.4ポイント増加した。

図表2 - 1 各分野における景気の先行き判断D Iの推移表

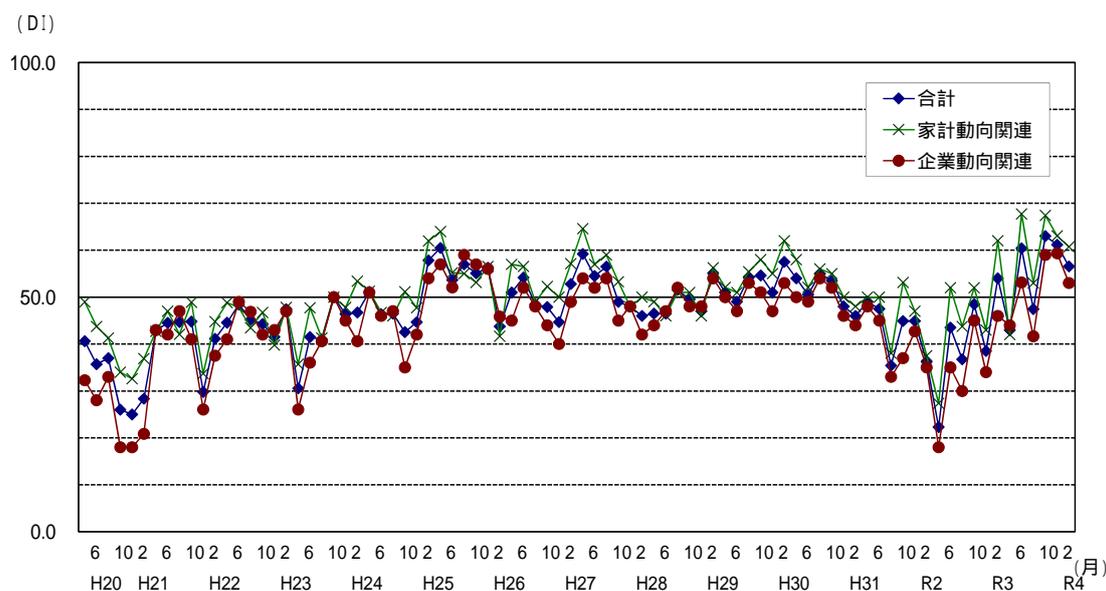
(D I)	令和3年		令和4年		(変化幅)
	10月	12月	2月		
合計	63.0	61.2	56.5		(-4.7)
家計動向関連	67.4	63.0	60.7		(-2.3)
小売関連	66.1	64.3	57.7		(-6.6)
飲食関連	-	-	-		(-)
サービス関連	75.0	65.0	56.3		(-8.7)
住宅関連	-	-	-		(-)
企業動向関連	59.0	59.4	53.0		(-6.4)
製造業	65.0	62.5	45.0		(-17.5)
非製造業	57.5	58.8	55.0		(-3.8)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2 - 2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
令和3年	10	6.3%	47.9%	37.5%	8.3%	0.0%
	12	4.3%	40.4%	51.1%	4.3%	0.0%
令和4年	2	2.2%	47.8%	26.1%	21.7%	2.2%
	(変化幅)	(-2.1)	(7.4)	(-25.0)	(17.4)	(2.2)

図表2 - 3 各分野における景気の先行き判断D Iの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

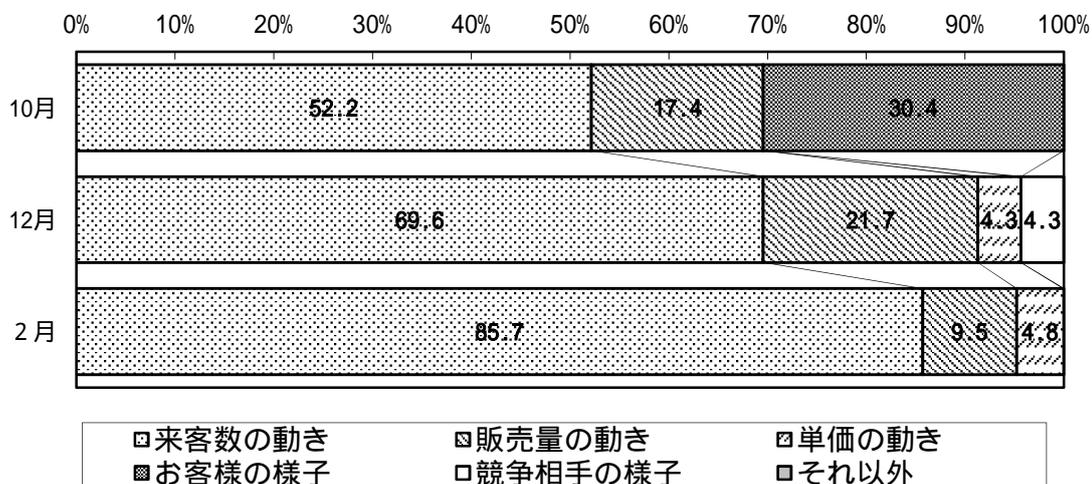
(D I)	令和3年		令和4年	
	10月	12月	12月	2月
合計	44.8	54.3	54.3	34.8
家計動向関連	48.9	56.5	56.5	28.6
小売関連	44.6	50.0	50.0	34.6
飲食関連	-	-	-	-
サービス関連	55.0	60.0	60.0	18.8
住宅関連	-	-	-	-
企業動向関連	41.0	52.1	52.1	40.0
製造業	30.0	43.8	43.8	35.0
非製造業	43.8	53.8	53.8	41.3

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

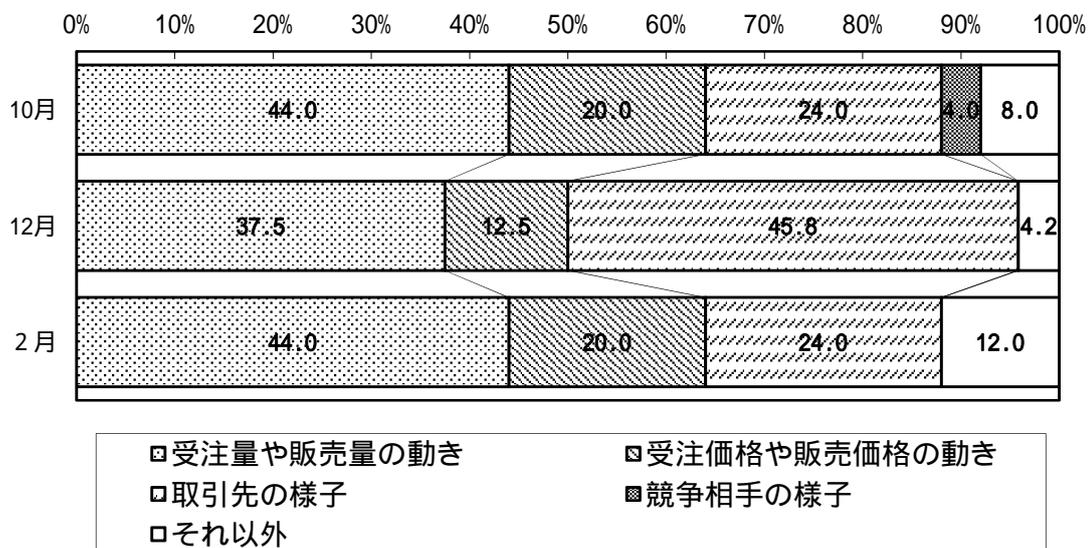
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の状態に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の状態に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	百貨店(総務経理担当)	単価の動き	・近隣地区の商業施設を含め、1月までの前年比売上はアップしている。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・スーパーは新型コロナウイルス感染者数の増減に影響を受けており、現状は感染拡大中のため、変わらない。売上は前年比で11月よりも良くなっている。
	変わらない	一般小売店[食品](店長)	来客数の動き	・日によって来客数の増減が著しいため、売上の変動も激しいが、平均すると3か月前と変わっていない。新型コロナウイルスの感染者数や積雪などの情報により客足が遠のくようである。
		百貨店(総務担当)	来客数の動き	・前年に比べれば、人がやや増えつつある印象だが、まだ平時の7~8割程度である。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・前年末から来客数が戻ってきており、新型コロナウイルス発生前とは違つかたけで回復に向かうと思われたが、年明け1月10日頃からの新型コロナウイルスオミクロン株の急激な感染拡大により来客数が激減した。この先の見通しが全く立たない。
	やや悪くなっている	一般小売店[事務用品](営業担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株が流行してから、やはり人出がかなり減っている。年度末の需要期にもかかわらず、例年に比べて30%以上落ち込んでいる。
		百貨店(総務担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の影響が平日に出ている。
		百貨店(広報担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染再拡大に伴い、来客数が徐々に減少傾向にある。その一方で、高付加価値商品を求める消費マインド自体には、今のところ大きな影響はない。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・緊急事態宣言中であった前年と比べると来客数は126%となっているが、2月に入り、新型コロナウイルス感染者数が2万人を超えてからは、客足がびたりと止まってしまっている。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用された途端、客が来なくなる。時短営業も影響している。
		都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・一時収まったかに見えた新型コロナウイルスも、新型コロナウイルスオミクロン株が発生し、再び経済活動が停滞してしまっている。
		悪くなっている	一般小売店[文具](販売担当)	来客数の動き
	高級レストラン(経営者)		来客数の動き	・まん延防止等重点措置適用の10日前から客足が減少し始めた。地域柄法人客が多く、接待等を控えるためと推測され、新型コロナウイルス以外の要因はないとみている。そのため、適用と同時に夜の営業を休止している。3か月前に比べ売上は75%減少している。
	高級レストラン(副店長)		来客数の動き	・まん延防止等重点措置により、1月末から明らかに減少している。
旅行代理店(店長)	来客数の動き		・新型コロナウイルス感染者数の増加に伴い、旅行、出張共に来客数、販売量が激減している。	
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	印刷業・製本業(営業担当)	それ以外	・新型コロナウイルス感染症のピークアウトについて、楽観的な見解が出始めていることで、次の一手を打つ準備を既に始めているクライアントが出始めている。
		不動産業(企画担当)	取引先の様子	・新型コロナウイルス禍ではあっても、業績好調の企業も多く、オフィスの増床ニーズは堅調である。
		卸売業[機械器具](営業担当)	受注量や販売量の動き	・年度末に向け受注量が増えてきている。受注残もあり、今月、来月はやや良い。
その他サービス業[ビルメンテナンス](営業担当)		受注価格や販売価格の動き	・3か月前と比べると、予算に対して臨時での業務等価格が10%程度上がっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	出版業（営業担当）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月前、新型コロナウイルス第5波が収束し、経済活動も再開した。現在、第6波の真っ只中ではあるが、特に受注量、販売量に変わりはない。 ・価格の変動がある。
		建設業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況によって受注量の減少もあり得るので、先が読めない。 ・「新型コロナウイルス禍だから」はなくなったと感じている。何をしなくてはいけないかが各々見えてきている。 ・年度末の受注は余り期待できない。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	
	やや悪くなっている	新聞業（営業担当）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・受注量は前年比ではプラスだが、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大に伴うまん延防止等重点措置適用や期限延長により、回復は3か月前より鈍化している。
		金融業〔証券〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスオミクロン株のまん延の影響による株式市場の調整によって、客の資産の減少が生じている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大とともに、売上が再び減少傾向にある。
	悪くなっている	出版業（経営者）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・廃業する店が増えてきている。シャッター商店街の波は地方から首都圏へ及んでいる。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・まん延防止等重点措置の適用以来、急速に悪化している。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・景気が良いと判断できる材料が1つもない。仕入価格の高騰、特に中国からの資材入荷の遅延が著しく、厳しい運営と言わざるを得ない。

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般小売店 [和菓子] (経営者)	・希望的観測ではあるが、新型コロナウイルスのワクチン接種が進展し、今よりは経済が動き始めてほしい。
		一般小売店 [事務用品] (営業担当)	・新型コロナウイルスオミクロン株の流行も2月でピークを迎えそうなので、景気が上向くと予測できるが、この業種は国の後押しもなく、少し心配な部分もある。
		一般小売店 [文具] (販売担当)	・新型コロナウイルスオミクロン株の収束と、3回目のワクチン接種が進展し、経済は回復に進む。
		コンビニ (店長)	・新型コロナウイルスの感染リスクと隣り合わせでの経済活動ではあるが、季節的な要因もあり、緩やかに上向いていく。
		衣料品専門店 (店長)	・目的のない買物客が多いため、現状より悪くはならない。
		高級レストラン (経営者)	・やはり新型コロナウイルスの収束が見込めない限り、飲食は厳しいと推測している。ワクチンや薬が効いて感染が収まれば、従来の景気に回復すると察するが、時期が読めない。
		高級レストラン (副店長)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減って、まん延防止等重点措置が解除されれば、企業の宴会も多少増えてくる。
		一般レストラン (経営者)	・今が悪いので先のことは分からないが、4～5月は陽気も良くなるし、ゴールデンウィークもあるので楽しみにしている。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用されないことを祈る。
		一般レストラン (経営者)	・新型コロナウイルスも3年目に入り、人の意識が大分変わってきたように感じる。マスクを含めて、有識者の意見などが経済寄りになってくれれば良い。
	旅行代理店 (店長)	・新型コロナウイルス感染者数が落ち着けば、旅行需要の回復を見込める。ただし、ポリウムゾーンの海外旅行需要の回復はもう少し先になると想定している。	
	変わらない	一般小売店 [食品] (店長)	・新型コロナウイルス禍での生活が定着してしまったように感じる。
		百貨店 (総務担当)	・しばらく新型コロナウイルス感染者数の動向に左右される期間が続くそうである。
		百貨店 (広報担当)	・新型コロナウイルスの感染状況次第という側面が強いため、見通しは不透明である。大きく好転する又は落ち込んでいく要素は見当たらない。
		百貨店 (総務担当)	・新型コロナウイルス感染第6波の収束が見通せないなか、急激な好転は望めない。
		スーパー (店長)	・今後の新型コロナウイルスの感染状況によって変わってくるので、何ともいえない。
		競馬場 (職員)	・新型コロナウイルスの感染者数の動向が変わらない。
	やや悪くなる	百貨店 (総務経理担当)	・まん延防止等重点措置が適用されている。
		スーパー (店長)	・新型コロナウイルス感染が一旦落ち着き、スーパーの買物以外の消費が拡大すると推測している。
都市型ホテル (経営者)		・新型コロナウイルスオミクロン株の収束が見えないため、まだ景気の上向き傾向はみられない。	
悪くなる	-	-	
企業 動向 関連	良くなる	卸売業 [繊維・衣服等] (営業担当)	・まん延防止等重点措置適用以前は悪くなかったため、新型コロナウイルスが収束すれば良くなると期待している。
	やや良くなる	新聞業 (営業担当)	・まん延防止等重点措置の延長により景気は再び悪化しているが、解除後には回復する事を見込む。
		印刷業・製本業 (営業担当)	・新型コロナウイルス感染症のピークアウト時期や、次の変異株から今以上に弱毒化が進むとまことしやかに囁かれていることから、消費活動が早めに回復するのではないかと期待感が強まっている。
		建設業 (営業担当)	・仕事量が増加してくるとみている。
		輸送業 (従業員)	・新年度に向け、新規受注の話がある。
		通信業 (営業担当)	・今の新型コロナウイルスが収まってくれば様子見の状況が変化する。
		金融業 [証券] (営業担当)	・10～12月の決算関係が出そうことで、株式市場がある程度安定すると考えている。また、債券金利の上昇を受け、債券の取引量が増加することが予測される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		不動産業（企画担当）	・新型コロナウイルスの影響により、企業業績の二極化がみられる。都心の大型ビルにオフィスを構える企業では最高益を記録するところも多く、オフィスの増床事例が増加している。
		卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染第6波の拡大中だが、世間も過剰に反応していないため、景気の悪化は少ない。
		経営コンサルタント	・春を迎え、暖かきで新型コロナウイルスオミクロン株が減少する。各企業が活発化して、経済に勢いが戻り始める。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・正直なところ、新型コロナウイルスの感染状況にもよると思うが、年度も替わり、連休に向けて突発も含む受注量等が増加していく。
	変わらない	出版業（営業担当）	・新型コロナウイルスのまん延次第ではあるが、現在と同様に経済はそれなりに動く。しかし、新型コロナウイルスが完全に消滅することはないので、急激な良化は考えられない。
		通信業（営業担当）	・先が見えない。業種により格差がある。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・新型コロナウイルス感染者数そのものについては、一定の時期にピークアウトするものと思われるが、今後も変異株等の発生により、似たような波が繰り返されると考えざるを得ない。そうしたなかで、いわゆる巣籠り需要といわれていたものについても一服した感があり、一部の不動産等については堅調ではあるものの、景況を刺激するほどの特需は見られておらず、また海外の地政学的リスクなどを顧みると、強気の判断は難しいものとする。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・年度末を控えても特別に動きはなさそうである。
		卸売業〔機械器具〕（支社長）	・公共事業部門は計画をやや上回って着地する見込みだが、民間部門が苦戦している。来期に期待したい。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・2～3か月後に売上が立つような積極的な市場の動きはみられない。
	やや悪くなる	建設業（営業担当）	・受注が伸びていない。
		建設業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、業種により影響の広がりがみられ、徐々に景気に悪影響を及ぼしていく。
		建設業（経営者）	・物価の上昇や価格競争等、建設業全体の先行きは不透明である。この先数年は厳しい状況が続く。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・今月、来月まではやや良いが、2～3か月後の年度初めの受注残がなく、やや悪い状況になりそうである。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（管理担当）	・照明器具、ウォシュレット、ポンプ類等の設備機器の品薄状態が続き、施工できない工事が発生している。
	悪くなる	出版業（経営者）	・消費者は先行き不安感から財布のひもを締めつつあり、耐久消費財などの購入を先送りし、預金に回しているようである。

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	14
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0